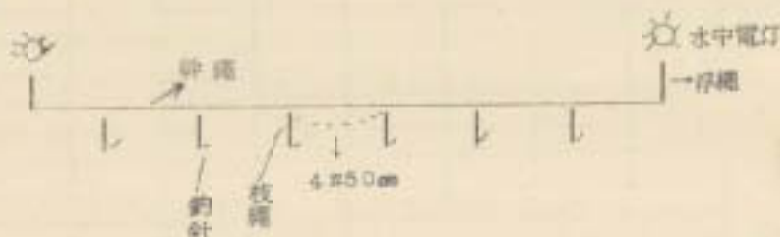


沼津底延縄漁業試験報告書

1. 期 間 1961年4月17日～4月22日 6日間
2. 使用船舶 かもめ丸 205t ヤンマーディーゼル16P
3. 従業員及調査員 技手 池真、比嘉船長、金城操長、山城王愛氏 計4人
4. 漁 場 a 北谷沿岸 b 恩納村仲泊及び名嘉真沿岸(別添参照)
5. 漁撈設備 舢舨一台 底延縄2鉢(1鉢100本付)  
夜間操業の為標燈として水中電灯3個を備えた。
6. 器具構成



名 称	材 質	規 格	数 量
幹 縄	綿糸	20番 30本合	450m
枝 縄	ナイロンテグス	1.4分	1本 71cm×100
浮 標	クレセナ	45本合×2	漁場水深に依つて適当に伸縮す
釣 針	鋼鉄	タイ釣針 1.5寸	100本
標 燈	ゴム製水中電灯	2管入	3

7. 調査日程

- 4月17日 試準備を完了し14時30分泊港出帆同日北谷沿岸にて底延縄漁業試験実施
- 4月18日 北谷沿岸から高千穂寄りにて同上試験を実施
- 4月19日 恩納村仲泊沿岸にて操業
- 4月20日 恩納村名嘉真沿岸にて操業
- 4月21日 同上
- 4月22日 午前8時調査を打ち切り同日午後1時30分泊港へ帰港した。

8. 調査要項

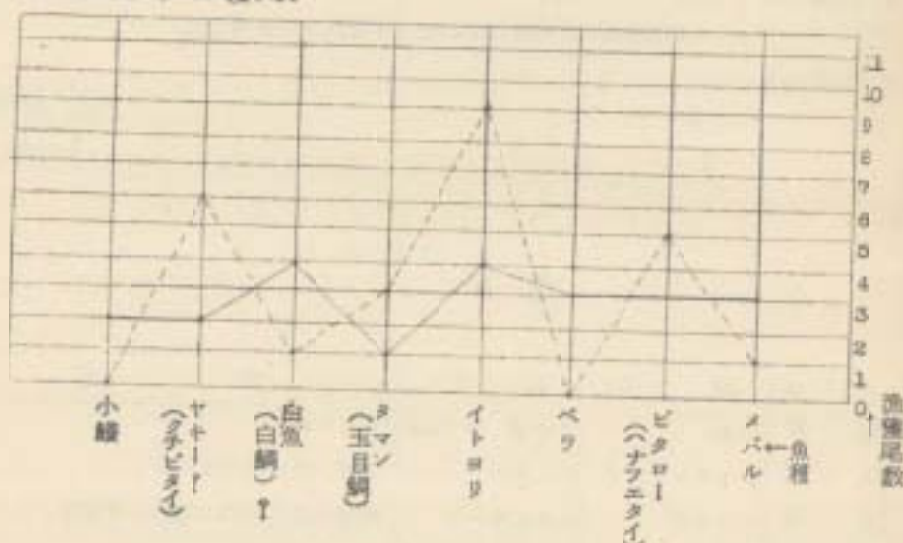
- (a) 夜光石利月に依る底魚の餌付関係調査
- (b) 綿糸20番手30本合の幹縄をA、B、P防腐剤に浸漬せるものと素縄との使用後に於ける耐久強比較試験  
(該試験は2或る程度の日時を経過しなければ結果が得られないので次回迄状況を観察して

から想定したい)

A 調査の結果

今次調査は出港日は天候も利々良好であつたが翌日からは南寄りの風が徐々に強まり其の上行を伴つて来たりで充分なる操業が出来ず短期の目的を達する事が出来なかつた事を遺憾に思う次第であります。各漁場での漁獲状況を取纏めて見ると概要次の如き結果を得た。向試験に供した漁具は1鉢(100本)で夜光石は2対1又は3対1の割合で結着した。

10 夜光石利用に依る漁獲状況



● 夜光石のついた釣針 ———— 夜光石のつかない釣針

上記の釣獲表から観察すれば夜光石を結着した場合には魚種によつては好嫌が何分ある様に見受けられる。即ちタイ類では白魚(白鯛)を除くイトヨリ、タテビ、ママメ、ビタロー(ハナフエタイ)等の釣獲が目立ち其他小鰻、スラは皆無でメバルは低下している所様にして種別によつては漁獲の変動が見受けられる傾向があるので今後回を重ねて調査研究を奨励したいものである。

1.1 作業一覽表

作業月日	4月17日	18日	19日	20日	22日	21日	21日
投 始 時	18-30分	19-30分	19-10分	18-15分	21-5分	18-45分	21-25分
獲 終 時	19-30分	19-55分	19-25分	18-25分	22-05分	19-00分	21-38分
揚 始 時	21-30分	20-55分	19-50分	19-10分	23-00分	19-30分	22-00分
揚 終 時	23-30分	21-43分	20-50分	20-35分	24-15分	20-45分	23-25分
漁 場	北谷岬岸	カテナ岬岸	仲泊岬岸	高真岬岸	#	#	#
水深(米)	30-60	35-70	60-130	20-40	40-75	95-180	40-65
底 質	No Sh.R	S Sh	S R	S Co.R	S Sh	S Co	S Co
水 温	21.5°C	21.7°C	21.5°C	21.5°C	21.5°C	21.5°C	21.6°C
餌 料	冷凍サヘ	#	#	#	#	#	#
使用 釣 針	夜光石付	5本	50本	25本	25本	25本	25本
	素 針	150本	150本	75本	175本	175本	175本

1.2 購入物品

- a 油類燃料            デイゼル油1缶(200 )
- b 餌料(サソメ)      4 $\frac{1}{8}$  水1屯 ナイロンテグス1分2厘4丸  
ウニス1克

1.3 調査位置及かめ丸航路(別図添付)

酒造及製糖区

凡例

- 200°等温線
- 平均年降水量
- 国境線
- 市界線
- 製糖工場

